



宮崎大学学術情報リポジトリ

University of Miyazaki Academic Repository

文部科学省検定済教科書『Sunshine English Course(開隆堂)』指導用CAN-DOリスト作成と学習到達目標設定

メタデータ	言語: jpn 出版者: 宮崎大学教育文化学部附属教育協働開発センター 公開日: 2014-04-28 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 鈴木, 晴美, 伊勢野, 薫, Suzuki, Harumi, Ise no, Kaoru メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10458/4845">http://hdl.handle.net/10458/4845</a>

# 文部科学省検定済教科書『Sunshine English Course(開隆堂)』 指導用CAN-DOリスト作成と学習到達目標設定

鈴木 晴美<sup>1</sup>

伊勢野 薫<sup>2</sup>

## Making CAN-DO Lists and Setting Achievement Goals for *Sunshine English Course Textbooks (Kairyuudo)*

Harumi SUZUKI

Kaoru ISENO

### 要旨

本研究は、CAN-DOリストを活用した英語指導を通して授業改善を図り、自律的学習者を育成するとともに、生徒の英語力を高めることを目的とする。「英語を用いて何ができるか」(CAN-DO)という観点から到達目標を設定し、それを評価や授業改善に反映させる取組が大学、高校において定着しつつある。中学校においては教科書の編集自体が3年間の到達目標を段階に応じて達成できるような形式となっており、その学習内容自体がCAN-DOリストのように構成されている。そのため中学校におけるCAN-DOリストの作成は各学校において徐々に進められてはいるものの、全体として大学、高校ほどの普及は見られない。

そこで本研究にあたっては、中学校においても学習指導領の改訂に伴い、生徒に求められる英語力を分析し、それらを着実に身につけていく指針となる実用的なCAN-DOリストが必要であると考え、作成に取り組んだ。中学校三年間で身につけるべき英語力を、教科書を分析することにより具体的に検証するとともに、日々の授業において「生徒たちにどのような力をつけていきたいのか」、また「どのような形でその力を把握し、評価していくのか」を明確に示す内容となるようにした。なお、本研究では現在宮崎県の全中学校で採用されている文部科学省検定済教科書『Sunshine English Course (開隆堂)』1年～3年生用を分析し、それに基づいてCAN-DOリストを作成した。

### 1. 研究の背景

社会や経済のグローバル化が急速に進展する現在、国際共通語としての英語力の向上は、英語教育の分野のみならず、我が国の国際競争力を高め、さらに国際共存、国際理解を進めていく上で重要な課題である。これらグローバル社会で求められる英語力を培うために、これまで英語教育においては様々な改革や提言がなされてきた。平成15年には文部科学省により「『英

<sup>1</sup> 宮崎大学大学院教育学研究科院生, 宮崎市立宮崎中学校教諭

<sup>2</sup> 宮崎大学大学院教育学研究科

語が使える日本人』の育成のための行動計画」が策定され、英語教育の改善の目標や方向性ととも、その実現に向けて取り組むべき施策が具体的な行動計画として示された。また、平成20年3月に告示された新しい学習指導要領に基づき、昨年度より中学校では授業時数が週3時間から週4時間というように約3割増しとなり、それに伴い語彙の増加や文法指導の重視など、更なるコミュニケーション能力の向上を目指した改訂がなされた。さらに、平成23年6月、「外国語能力の向上に関する検討会（平成22年11月5日初等中等教育局長決定）」により「国際共通語としての英語力向上のための5つの提言と具体的施策～英語を学ぶ意欲と使う機会の充実を通じた確かなコミュニケーション能力の育成に向けて～」が取りまとめられ公表された。その提言の基本的な考えとして、①英語力向上の重要性、②求められる英語力の具体的な提示、③新学習指導要領の着実な推進が明記されており、国がいかに英語力向上を重視し取り組んでいるか、同時に学校の英語教育においても更なる改革を図ることが急務であるかが分かる。

## 2 研究の方法

本研究を進めるにあたり、CAN-DOリストの在り方について、またその必要性や活用の在り方について以下に示すこととする。

### 2.1 CAN-DOリストとは何か

CAN-DOのもともとの発想は、実際に場面に応じた言語使用ができるかを判断するものである。「教科書の本文を読んだ」、「小テストに合格した」というような英語の勉強方法やまとめのためにするような内容ではない。「料理のレシピを読んで作り方が分かる」、「天気予報を聞いて今日の天気について知ることができる」、「バースデーパーティーの招待状を書くことができる」など何かの目的があり、そのために英語を使うという内容にならない。また、その内容は学習者が自力でできることを示した内容でなければならないため、教師や他の学習者の助けを借りてできたものは、「設定された目標を達成した」とはみなさない、というのが本来のCAN-DOリストの在り方である。

しかしながら、中学校のCAN-DOリスト作成にあたっては、英語学習の初期段階にあり基礎・基本から知識を積み上げていかなければならない、ということ配慮すべきである。生徒たちは学習する過程においていくつものスモールステップを積み重ね、できることが徐々に増えていくものである。そういった点を配慮し、「文字が読める」、「正しく書ける」、「ゆっくり話されれば理解できる」、「SVCの文の構造を理解することができる」など、英語学習を進めていくうえで必要な力をつけた、またヒントや他の支援を得てできたことに関しても「目標を達成した」とみなしていく必要があるのではないかと考え、作成にあたった。

### 2.2 CEFRとCAN-DOリスト

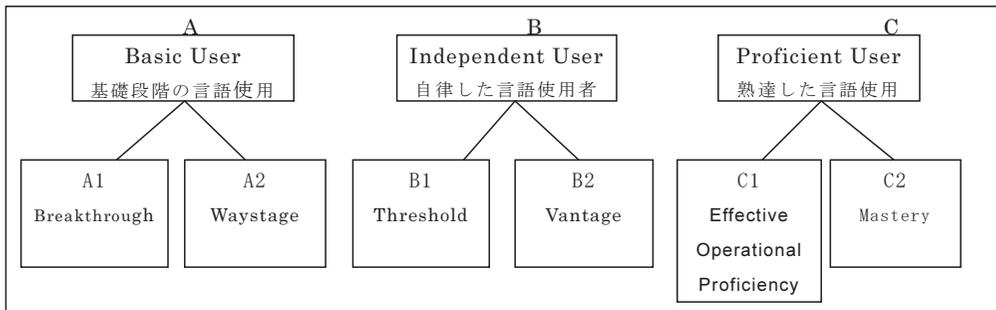
CAN-DOリストはCEFRの流れを受け、日本人の英語学習に合わせて各学校により編成されたものである。

CEFRとはCommon European Framework of Reference for Languages（ヨーロッパ言語共通参照枠）のことで、欧州評議会（Council of Europe）という組織によって、2001年に正式に公開された枠組みである。CEFRは、ヨーロッパにおける外国語教育の向上のために、第二言語の使用、教育方針や学習者の達成度など、様々なことについて共通の基準を構築しようという目的で開

発された。日本においては2004年前後から外国語教育の分野でこの参照枠について、様々なシンポジウムや学会で講演や研究発表が活発になされ、学校教育へと普及してきた。

CEFRの示す指標は次の資料1のように、初級・中級・上級に相当するA、B、Cが各々2つのレベルに分けられている6段階評価によって提示されている。また、それぞれの具体的な指標を資料2に示す。

資料1 CEFR共通参照レベル



URL:<http://www.dokkyo.net/~daf-kurs/library/CEF.pdf>(retrieved on January 11, 2013)

資料2 CEFR全体的な尺度

熟達した言語使用者	C2	聞いたり、読んだりしたほぼ全てのものを容易に理解することができる。色々な話し言葉や書き言葉から得た情報をまとめ、根拠も論点も一貫した方法で再構成できる。自然に、流暢かつ正確に自己表現ができ、非常に複雑な状況でも細かい意味の違い、区別を表現できる。
	C1	色々な種類の高度な内容のかなり長いテキストを理解することができ、含意を把握できる。言葉を探しているという印象を与えずに、流暢に、また自然に自己表現ができる。社会的、学問的、職業上の目的に応じた、柔軟な、しかも効果的な言葉遣いができる。複雑な話題について明確で、しっかりとした構成の、詳細なテキストを作ることができる。その際、テキストを構成する軸や接続表現、結束表現の用法をマスターしていることがうかがえる。
自立した言語使用者	B2	自分の専門分野の技術的な議論も含めて、抽象的かつ具体的な話題の複雑なテキストの主要な内容を理解できる。お互いに緊張しないで母語話者とやり取りができるくらい流暢かつ自然である。かなり広汎な範囲の話題について、明確で詳細なテキストを作ることができ、様々な選択肢について長所や短所を示しながら自己の視点を説明できる。
	B1	仕事、学校、娯楽で普段出会うような身近な話題について、標準的な話し方であれば主要点を理解できる。その言葉が話されている地域を旅行しているときに起こりそうな、たいていの事態に対処することができる。身近で個人的にも関心がある話題について、単純な方法で結びつけられた、脈絡のあるテキストを作ることができる。経験、出来事、夢、希望、野心を説明し、意見や計画の理由、説明を短く述べることができる。

基礎段階の言語使用者	A2	ごく基本的な個人情報や家庭情報、買い物、近所、仕事など、直接的関係がある領域に関するよく使われる文や表現が理解できる。 簡単に日常的な範囲なら、身近で日常の事柄についての情報交換に応ずることができる。 自分の背景や身の回りの状況や、直接的な必要性のある領域の事柄を簡単な言葉で説明できる。
	A1	具体的な欲求を満足させるため、よく使われる日常的表現と基本的な言い回しを理解し、用いることもできる。 自分や他人を紹介することができ、どこに住んでいるか、誰と知り合いか、持ち物などの個人的情報について、質問をしたり、答えたりできる。 もし、相手がゆっくり、はっきりと話して、助け船を出してくれるなら簡単なやり取りをすることができる。

URL:<http://www.dokkyo.net/~daf-kurs/library/CEF.pdf>(retrieved on January 11, 2013)

### 2.3 授業改善としてのCAN-DOリストの活用

生徒の英語力を測るためには、実際に生徒たちが英語を使って何ができるのかを測ることが重要である。そのためには、文法事項の定着や既習の学習内容の定着を振り返る従来のテスト内容では十分とは言えない。つまり、実際の言語使用場面において、英語を適切に使える能力があるのかを評価できる内容のものを課す必要がある。

例としては、パフォーマンステストやインタビューテスト、またタスク活動(指定されたテーマについてのスキット、ミニディベート、物語の感想、即興の会話など、自分が伝えたい内容を既習事項を駆使して伝える活動)などがあげられる。CAN-DOリストに具体的に明文化された到達目標が、実際に達成できているか確認できる活動内容が必要なのであり、それらを実際に生徒たちにさせてみて評価することにより、目標が達成されたのかが判断される。そして教師はその結果を実際の授業にフィードバックしながら授業改善につなげていくことが生徒たちの英語力向上に欠かせないものであると考える。

理想的な授業の在り方として、横溝(2010)は次の流れを提示している。

- ① 生徒が何を求めているか、生徒にとって何が必要か、生徒にどんな力をつけてあげたいかを考え、
- ② そのニーズを満たすために、大きな学習目標を立て、その目標に基づいて学習する項目を決め、
- ③ その学習内容をマスターできたかどうかを決定するためのテストを作成し、
- ④ そのテスト合格を達成するために、必要な教材を選び/作成し、
- ⑤ その教材を最大限に活かすような考え方の工夫をする

(横溝2010 p.p.3-4)

つまり①は生徒の実態把握や教科書・教材分析、②は3年間、及び各学年の到達度目標とそこに至るまでのスモールステップを意識したCAN-DOリスト作成、③は定期テスト、小テスト、及びパフォーマンステスト等の実施、そして④、⑤は生徒の実態を踏まえた授業改善、フィードバックであると考えられる。

### 3 研究の実際と考察

#### 3.1 CAN-DOリスト作成上の留意点

CAN-DOリストを作成するにあたり、欠かせないのは最終的な到達目標を明確にすることである。中学校卒業時に身につけさせたい英語力として設定する目標は言うまでもなく、

- 1) 学習指導要領において定められている言語内容を着実に身につけさせること、
- 2) 県立高校入試問題に対応する力を身につけること、
- 3) 「国際共通語としての英語力向上のための5つの提言と具体的施策」における「提言1」の中にあるように、英検3級程度以上の力を身につけさせることである。

これら3つの求める英語力とはどのようなものであるか、以下のように分析した。

##### 3.1.1 学習指導要領の改訂から

今回の学習指導要領の改訂にあたり、まず目標において「聞くこと」「話すこと」「読むこと」「書くこと」の言語活動において具体的に下線部の項目が追加された。(資料3)

資料3 新学習指導要領における言語活動の改訂箇所

領域	改訂及び追加内容(太字下線部)
聞くこと	(イ) 自然な口調で話されたり読まれたりする英語を聞いて、 <u>情報を正確に聞き取る</u> こと。 (エ) 話し手に聞き返すなどして内容を <u>確認しながら理解</u> すること。 (オ) <u>まとまりのある英語を聞いて、概要や要点を適切に聞き取る</u> こと。
話すこと	(イ) 自分の考えや気持ち、 <u>事実など</u> を聞き手に正しく <u>伝える</u> こと。 (エ) つなぎ言葉を用いるなどのいろいろな工夫をして <u>話を続ける</u> こと。 (オ) <u>与えられたテーマについて簡単なスピーチ</u> をすること。
読むこと	(ウ) 物語の <u>あらすじや説明文</u> の大切な部分などを正確に読み取ること。 (オ) <u>話の内容や書き手の意見などに対して感想を述べたり、賛否やその理由を示したり</u> などすることができるよう、書かれた内容や考え方などをとらえること。
書くこと	(イ) <u>語と語のつながり</u> などに注意して正しく文を書くこと。 (ウ) 聞いたり読んだりしたことについてメモをとったり、感想、 <u>賛否やその理由</u> を書いたりなどすること。 (エ) <u>身近な場面における出来事や体験したこと</u> について、自分の考えや気持ちなどを <u>書く</u> こと。 (オ) 自分の考えや気持ちなどが読み手に正しく伝わるように、 <u>文と文のつながり</u> などに注意して文章を書くこと。

以前よりも理解・表現において正確さが求められ、自分の考えを表明するだけでなく、その理由を述べたり話を続けたりする力が求められるなど、より高度なコミュニケーション能力が求められていることが分かる。さらに、言語材料の取り扱いについては、発音指導や文法力

の育成が重視されていることも今回の改訂の大きな特徴である。「発音と綴りを関連付けて指導すること」、「文法については、コミュニケーションを支えるものであることを踏まえ、言語活動と効果的に関連付けて指導すること」、「語順や修飾関係などにおける日本語との違いに留意して指導すること」など新たにその指導についても具体的に示されている。

### 3.1.2 高校入試問題に対応できる力の育成として

先程の授業のカリキュラムデザインにおいて、まずニーズ分析から授業の流れが始まっていることが分かる。ニーズとは生徒側が求めているもの、また教師側及び国が生徒たちに求める力と考えられる。生徒はどのようなことができるようになりたいと思っているのか、どんなことに興味を持っているのか、さらにはどのような力を今までに身につけ、またはどのような力が定着不足であるのか、という生徒の英語学習に対する様々な現状を知ることは授業を進めていく上で重要な課題である。

その中でも中学校における生徒と教師、両者の一致する現実的ニーズは高校入試に合格する力を身につけることではないだろうかと考えた。そこで宮崎県の県立高校入学者選抜学力検査の問題内容を分析し、そこからどのような力が求められているのかを以下のように分析した。(資料4)

資料4 平成24年度宮崎県県立高校入学者選抜学力検定(外国語科)の内容

	問題内容	求められる力
大問 1	<p>&lt;リスニングテスト&gt; 1、英文聞き取り及び内容が示す絵を選択</p> <p>2、ディクテーション</p> <p>3、対話文聞き取り、英問英答</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・時間や物の数などの数字を正確に聞き取ることができる。</li> <li>・複数の情報を聞き取り、それを基に必要な情報を選択する、または推測できる。</li> <li>・自然な速さで話される英文を聞き、単語を正確に聞き取ることができる。</li> <li>・対話文を聞き、要点、概要をつかむことができる。</li> <li>・内容についての質問を聞き、適切に答えることができる。</li> </ul>
大問 2	<p>&lt;対話文読解&gt; 対話文の空欄に入る文を、選択肢から選ぶ問題</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・話の前後の内容から問われている個所の内容を推測し、適切な文を選択することができる。</li> <li>・既習事項の知識を基に英文の意味を正しくつかむことができる。</li> <li>・対話文でよく使用される表現や確認、相づちの打ち方を知っている。</li> </ul>
大問 3	<p>&lt;長文読解&gt; 1、E-メールの内容の読み取り</p> <p>2、スピーチ文の内容理解</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・E-メールや手紙文の形式を理解し、内容の要点を読み取ることができる。</li> <li>・既習事項の知識を基に英文の意味を正しくつかむことができる。</li> <li>・前後の文から内容を推測し、空欄に入る適切な文章を選択することができる。</li> </ul>

大問 4	<文法・英作文> 1、語順整序問題 2、対話文読み取り、及び英作文	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 英文の語順を正しく身につけている。</li> <li>・ 自分の考えや意見を理由をつけて表現することができる。</li> <li>・ 文法に従って正しく英文を書くことができる。</li> <li>・ 趣旨に沿って、いくつかのまとまった文が書ける。</li> </ul>
大問 5	<長文読解> 1、英文補充問題  2、指示語  3、内容理解  4、内容理解、空欄補充 5、内容理解  6、要約文完成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 550字程度の英文を読みその概要をつかむことができる。(WPM50以上の力が求められる。)</li> <li>・ 本文の内容に合う英文になるように、適切な文を選択することができる。</li> <li>・ 文の内容を適切に読み取り、代名詞が何を指すのか理解することができる。</li> <li>・ 本文を読み、内容に関する質問に適切に答えることができる。</li> <li>・ 連語を理解について適切に使うことができる。</li> <li>・ 作者や登場人物の言いたいことや、内容の趣旨を日本語で的確に説明することができる。</li> <li>・ 文法に従って文の空欄に適語を正しく入れることができる。</li> <li>・ 時制や語形の変化などについての知識を正しく身につけている。</li> <li>・ 本文を正しく理解し、同じような意味の文に言い換えたり、要約したりすることができる</li> </ul>

大問1はリスニングであるが、この内容もただ単語を聞き取るのではなく、前後の関係、条件などを踏まえ、判断する力を要求するものである。大問2は対話文読解、大問3・5は長文読解であり、この入試問題において長文問題は、実に全体の6割を占めていた。大問4は文法と英作文で、語順整序問題や、読みとった内容について意見を書く英作文問題などが出題されている。基礎的な力を問う問題も見受けられるが、それらの問題においても、文章全体の内容を把握し、文脈の中から総合的に判断していかなければならないレベルの英語力を求めている。上記の問題に対応していける英語力をつけていくためには、効果的な言語活動や指導法を綿密に工夫し、3年間にわたる日々の授業を体系的かつ計画的に実践していくことが必要である。

### 3.1.3 英検3級合格の目安として

5つの提言において、国は中学校卒業時点で求められる英語力を英検3級程度以上と提示している。実際に勤務校においては、年によって多少の違いはあるものの3年生までに半数近くの生徒が英検3級または準2級に合格している。また英検3級を受験した生徒の8割以上が合格していることなどを踏まえると、妥当な到達目標であると考えられる。

では、英検3級程度とは具体的にどのようなレベルの英語力であるのか。ここに日本英語検定協会が実際に作成している3級合格の目安となるCAN-DOリストを示すこととする。(資料5)

## 資料5 英検3級CAN-DOリスト

読む	簡単な物語や身近なことにに関する文章を理解することができる。
	<ul style="list-style-type: none"> <li>興味・関心のある話題に関する簡単な文章を理解することができる。</li> <li>日常生活の身近な話題についての文章を理解することができる。(スポーツ、音楽など)</li> <li>短くて簡単な物語を理解することができる。(簡単な伝記や童話など)</li> <li>日本語の注や説明がついた簡単な読み物を理解することができる。(学校の課題図書、学習者向けの物語など)</li> <li>簡単に書かれた英語の地図を見て、通りや店、病院などを探することができる。</li> </ul>
聞く	ゆっくり話されれば、身近なことにに関する話や指示を理解することができる。
	<ul style="list-style-type: none"> <li>ゆっくり(または繰り返して)話されれば、興味・関心のある話題に関する話を理解することができる。(趣味に関すること、好きな音楽やスポーツのことなど)</li> <li>ゆっくり(または繰り返して)話されれば、日常生活の身近な話題に関する簡単な話を聞いて、その内容を理解することができる。(学校、クラブ活動、週末の話など)</li> <li>ゆっくり(または繰り返して)話されれば、簡単なアナウンスを聞いて、理解することができる。(集合場所、乗り物の出発や到着時刻など)</li> </ul>
話す	身近なことについて簡単なやりとりをしたり、自分のことについて述べるすることができる。
	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の好きなことについて、短い話をするすることができる。(趣味、クラブ活動など)</li> <li>物ごとの「好き」「嫌い」とその理由を簡単に述べるすることができる。(動物、食べ物、スポーツなど)</li> <li>日常生活の行動について言うことができる。(例：I got up at seven. / I ate some bread for breakfast.)</li> <li>自分の予定を簡単に言うことができる。(例：I'm going to meet my friends.)</li> <li>簡単な頼みごとをすることができる。(例：Can you open the window, please?)</li> <li>身近なことで相手を誘うことができる。(例：Let's go to a movie tonight.)</li> <li>簡単な相づちを打つことができる。(例：I see. / Really?)</li> </ul>
書く	自分のことについて簡単な文章を書くことができる。
	<ul style="list-style-type: none"> <li>簡単な自己紹介の文章を書くことができる。(名前、住んでいるところ、家族など)</li> <li>自分の趣味について、書くことができる。</li> <li>物ごとの「好き」「嫌い」とその理由を書くことができる。(食べ物、スポーツ、音楽など)</li> <li>短い日記を書くことができる。(1文から3文程度)</li> <li>簡単なカードやはがきを書くことができる。(誕生日カード、旅行先からの絵はがきなど)</li> <li>短い伝言を書くことができる。(例：Ken called at 3 p.m.)</li> </ul>

URL:[http://www.eiken.or.jp/about/cando/cando\\_02\\_5.html](http://www.eiken.or.jp/about/cando/cando_02_5.html)(retrieved Jan 11, 2013)

## 3.2 CAN-DOリストを使った授業実践の実際

先にも述べたが、現在多くの学校でCAN-DOリストの作成が行われ、それを生かした授業実践が進められている。宮崎県においても地域ごとに中学校でCAN-DOリスト作成に取り組んでいるところもあり、それらのリストを実際に拝見する機会を得た。その中で2つの点において、自分自身で取り組み改善したいと思うことがあった。

- 1) 実際に、授業の中のどの場面において、その項目について実践し評価していくのが明確に伝わるCAN-DOリストが作れないだろうか。
- 2) 生徒自身が、自分の英語力をチェックし達成感を味わえる内容、そして同時に自分はどこでつまづいているのかを気づくことができる内容にできないだろうか。

これら2つを踏まえ、教師用、生徒用、そして教師用のCAN-DOリストの内容を踏まえた年間評価計画の3つを作成した。教師用CAN-DOリスト及び年間指導評価計画案の作成に関しては、文部科学省検定済教科書『ONE WORLD ENGLISH COURSE』（教育出版）の年間指導評価計画案を参考にした。

### 3.2.1 プログラムごとのCAN-DOリスト例

1年生から3年生までの教科書を分析し、各プログラムでどのような力をつけることが求められているのかを明確にしたものを作成した。このCAN-DOリストは、「聞く」「話す」「読む」「書く」といった4領域の力の到達度を示すばかりでなく、それぞれ1)「コミュニケーションへの関心・意欲・態度」、2)「外国語表現の能力」、3)「外国語理解の能力」、4)「言語や文化についての知識・理解」といった項目で分けられ、実際の評価に生かせるような形となっている。(資料6)このリストに基づいた指導により、教師はそれぞれの活動がどの項目についての評価につながるのかが把握でき、より良い授業実践へとつながるものとする。

資料6 教師用プログラムごとのCAN-DOリスト例（3年生用）

3年生英語科 Sunshine Can-do list (それぞれの領域で身につけたい力)				
Program 8 Clean Energy Sources				
単元目標	・関係代名詞(目的格)の表現を正しく身につけ、運用する。			
領域	コミュニケーションへの関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての知識・理解
聞くこと	【言語活動への取組】 教師や発表者の話す英語を聞いて内容を理解しようとしている。		【正確な聞き取り】 様々な情報が含まれる説明文を聞いて、正確に内容を理解することができる。	
話すこと	【言語活動への取組】 聞き手に理解してもらおうと工夫しながら話をしようとしている。	【正確な発話】 関係代名詞を用いて人やものについて詳しく説明することができる。  正しい強勢、イントネーション、区切りなどを用い、気持ちを込めてスピーチすることができる。		【言語についての知識】 強音や弱音などの英語を言う際のリズムについての知識を身に付けている。
読むこと		【正確な音読】 正しい強勢、イントネーション、区切りなどを用いて音読することができる。	【適切な読み取り】 関係代名詞(目的格)を用いた文を読んで正しく理解することができる。	
書くこと	【言語活動への取組】 学んだ表現を積極的に使ってエネルギーについてのスピーチ文を書こうとしている。	【適切な筆記】 読み手に分かりやすく情報をまとめたり、自分の意見を書くことができる。		【言語についての知識】 関係代名詞目的格(which, that)を用いた文、接続詞1を書く際の構造や用法についての知識を身に付けている。  よく使われる語句を正しいつづり、用法で書くことができる。

### 3.2.2 自己評価を兼ねた生徒用CAN-DOリスト

本研究では、学習に入る前に生徒たちが授業内容及び自分がこれからできるようになるであろうことを明確に把握できるリストを作成した。(資料7) このリストを配布することにより、教師からの評価だけでなく、生徒自身が学習の過程で自己評価しながら達成感を味わい、振り返りや学習の補充ができることと期待される。さらにこのリストにはタスク活動やパフォーマンステストの内容も含まれており、教師は生徒の自己評価の確認に加え、生徒の達成度を確認することができる。したがって、このリストを活用することで「全員ができるようになるまで支援する」、という指導につながるのではないかと考える。

資料7 生徒用CAN-DOリスト例

年生 プログラム6 生徒用CAN-DOリストの内容		自己 チェック	チェック
<b>&lt;Listening&gt;</b>			
section 1	・相手の好きなことやしたいことを聞いて理解することができる。		
	・教科書の対話文を聞き、由紀の職場体験学習について理解することができる。		
section 2	・対話文を聞き、行動の目的についての確に聞き取ることができる。		
	・教科書の対話文を聞き、武史の職場体験学習について理解することができる。		
section 3	・対話文を聞き、相手が忙しい理由を聞き取ることができる。		
	・桃子のスピーチを聞いて内容を理解することができる。		
<b>&lt;Speaking&gt;</b>			
section 1	・自分のしたいことや、することが好きなことを不定詞を用いて伝えることができる。		
	・今週末にしたいことについて、ペアで対話することができる。		
section 2	・最近訪れた場所について、その目的を述べながら紹介することができる。		
	・自分の将来の職業に向けてすべきことを不定詞を用いて言うことができる。		
section 3	・p58のSpeakingをペアで役割分担し、40秒以内に全文言うことができる。		
	・物を推測させるクイズを作り、相手に適切に伝えることができる。		
<b>&lt;Reading&gt;</b>			
section 1	・名詞的用法の不定詞を用いた英文を読んで、意味を正しく理解することができる。		
	・ペアでジェスチャーを交えて音読することができる。		
	・教科書の本文を読み、内容について英語での質問に正しく答えることができる。		
section 2	・副詞的用法の不定詞を用いた英文を読んで、意味を正しく理解することができる。		
	・ペアでジェスチャーを交えて音読することができる。		
	・教科書の本文を読み、武史が職場体験で学んだことを説明できる。		
section 3	・形容詞的用法の不定詞を用いた英文を読んで、意味を正しく理解することができる。		
	・シャドーイングができる。		
	・教科書の本文を読み、内容について英語での質問に正しく答えることができる。		
<b>&lt;Writing&gt;</b>			
section 1	・不定詞を用いて、したいことや好きなことを書いて表現することができる。		
section 2	・不定詞を用いて、行動の目的を含んだ文を書くことができる。		
section 3	・学んだ表現を用いて、将来の夢について7文程度のまとまった文章が書ける。		

### 3.2.3 年間指導評価計画

CAN-DOリストで設定した達成度目標を「どのような形で評価していくか」を示したものが年間指導評価計画（資料8）である。ここではCAN-DOリストの項目を評価規準として設定し、それに対する評価基準及び具体的な評価方法を示している。

資料8 1年生年間指導評価計画（Program 1より抜粋）

	プログラムの評価規準 ア 関心・意欲・態度 イ 表現 ウ 理解 エ 知識	評価基準 Aの基準 Bの基準	評価の方法 (具体的な評価方法例)
ア	L…リスニングの活動に興味をもって、積極的に取り組む。	A：教師の顔を見て話を聞いてうなずいたり、リスニングの活動に積極的に取り組む姿勢が常に見られる。 B：教師の顔を見て話を聞いて、リスニングの活動に積極的に取り組む姿勢が見られる。	活動中の観察（継続的に観察評価する）
	S…各活動において、CDや教師の英語の発音を真似しようとする。	A：CDや教師の英語の発音を真似て、適切な声量で言おうとする態度が常に見られる。 B：CDや教師の英語の発音を真似て、適切な声量で言おうとする態度が見られる。	活動中の観察（継続的に観察評価する）
エ	L…アルファベットを聞いて、文字を認識できる。	A：アルファベットを聞いて、どの文字かすべて認識することができる。 B：アルファベットを聞いて、どの文字か認識することがおおむねできる。	リスニングテスト（例：アルファベットを聞いて、複数のアルファベットから選ぶ形式）
	L…身の回りのものを表す単語の発音を聞いて、その意味がわかる。	A：単語の発音を聞いて、ほぼすべての単語の意味を理解することができる。 B：単語の発音を聞いて、ほとんどの単語の意味を理解することができる。	リスニングテスト（例：単語の発音を聞いて、絵や日本語の中から選ぶ形式）
	S…アルファベットを順番に正しい発音で言うことができる。	A：すべてのアルファベットを正しい発音で順番通りに言うことができる。 B：一部のアルファベットの発音にやや不十分なところがあるが、正しい順番で言うことができる。	インタビューテスト（例：アルファベットを順番に発音する形式）
	S…単語を正しく発音することができる。	A：既習の単語を正しく発音することが十分にできる。 B：既習の単語を正しく発音することがおおむねできる。	インタビューテスト（例：教科書の絵を指して英語らしく発音する形式）
	W…アルファベットの大文字と小文字を正しく書くことができる。	A：アルファベットの大文字と小文字をすべて正しく書くことができる。 B：アルファベットの大文字と小文字をほぼすべて正しく書くことができる。	ペーパーテスト（例：大文字と小文字をアルファベットの順番通りに書く形式）

### 3.2.4 CAN-DOリストに基づいた授業実践例

ここでは、実際に授業を進める中でどの場面でCAN-DOリストの項目を意識して指導していくか、またどの場面でどのように評価していくかについて、模擬授業の指導案（資料9）を基

に紹介したい。本授業は第2学年『Sunshine English Course (開隆堂)』“A Work Experience Program” (Program 6) のセクション2の授業内容である。1セクションを2時間で行うため、2時間分の指導過程を通して資料7で紹介したCAN-DOリストのそれぞれの項目がどこで扱われているかを示すこととする。

【第2学年 Program 6-2 指導過程】①

段階	活動内容	指導上の留意点	CAN-DO リストとの関連 (評価方法)
復習		<ul style="list-style-type: none"> <li>・元気よくあいさつをさせる。</li> <li>・教師の質問に素早く答えさせる。</li> </ul>	L…対話文を聞き行動の目的について聞き取ることができる。 (観察)
導入	3、本時の学習内容を知る。 ○不定詞の副詞的用法の文を含む文を聞き、意味をとらえる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教師の話を集約して聞かせる。</li> </ul>	W…不定詞を用いて行動の目的を含んだ文を書くことができる。(ワークシート)
展開	4、新出表現の定着を図る。 ①教師の英語を聞き取り、正しく文を書く。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大きな声で練習させる。</li> <li>・素早く取り組ませる。</li> </ul>	S…最近訪れた場所についてその目的を述べながら紹介することができる。(ペアでのスキット発表)
	②ペアで対話練習をする。 ○ワークシートを用い、ペアで英文を完成させる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教師の説明を集約して聞かせ、ペアで協力して取り組ませる。</li> <li>・意味を考えさせる。</li> </ul>	R…副詞的用法の不定詞を用いた英文を読んで、意味を正しく理解することができる。(ワークシート)
開	③練習問題を解く。 5、教科書の本文を学習する。 ①新出単語の練習をする。 ②本文の内容を聞く。 ③T-Fクエスチョンで確認する。 ④本文を読む。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・集中して取り組ませる。</li> <li>・大きな声で素早く練習させる。</li> <li>・発音と意味の確認をさせる。</li> <li>・集中して教師の話やCDを聞かせる。</li> <li>・大きな声で読ませ、内容を読み取らせる。</li> </ul>	R…副詞的用法の不定詞を用いた英文を読んで、意味を正しく理解することができる。(ワークシート) L…教科書の対話文を聞き、武史の職場体験学習について理解することができる。 (発表)

【第2学年 Program 6-2 指導過程】②

段階	活動内容	指導上の留意点	CAN-DO リストとの関連 (評価方法)
導入	1、あいさつをする。 2、前時の内容の復習をする。 ○不定詞の副詞的用法の復習問題 ○ペアでの会話練習 3、前時の学習内容を復習する。 ○新出単語、連語の練習をする。 ○発音、イントネーション、意味を確認する。	・元氣よくあいさつをさせる。 ・教師の質問に素早く答えさせる。 ・副詞的用法の文を繰り返し練習し定着を図る。 ・教師の話を中心して聞かせる。 ・大きな声で繰り返し練習し、定着を図る。	L…対話文を聞き行動の目的について聞き取ることができる。(リスニングテスト) W…不定詞を用いて行動の目的を含んだ文を書くことができる。(小テスト)
展開	4、本文の内容を知る。 ①本文の内容のCDを聞く。 本文を見ずに2回聞き取らせる。 ②ディクテーションを行う。 教師の英語を聞き文の空欄を埋める。 ③英問英答に取り組む。 ④本文を日本語に訳す。 ワークシートに意味を書く。 ⑤ペアで音読の練習、暗唱を行う。 5、練習問題に取り組む。 6、将来の夢についての英作文を書く。	・教師の英文を集中して聞かせ、概要をつかませる。 ・ピクチャーカードを効果的に使い話の流れをつかませるとともにキーワードを聞き取らせる。 ・大きな声で読ませ、内容を読み取らせる。 ・意味をとらえさせながら読ませる。 ・ペアで協力して取り組ませる。 ・既習表現についても適宜復習しながら進める。	R…ペアでジェスチャーを交えて音読することができる。(音読テスト) R…教科書の本文を読み、武史が職場体験で学んだことを説明できる。(ワークシート) S…自分の将来の職業に向けて今しなければならぬことを不定詞を用いて言うことができる。(発表)
まとめ	6、本時のまとめと宿題の確認をする。 7、終わりのあいさつをする。	・集中して聞かせる。 ・元氣よくあいさつさせる。	W…不定詞を用いて行動の目的を含んだ文を書くことができる。(ワークシート)

【活動内容例：ワークシート）より】

### Worksheet

Program 6-2 (p56,57) 模擬授業用

< Practice 1 > 先生の読む英文を聞き取り、意味の通る文になるように

① My father wants to go to Tokyo \_\_\_\_\_

② We need meat and vegetables \_\_\_\_\_

③ You must learn math \_\_\_\_\_

④ Why do you come to school? \_\_\_\_\_

< Practice 2 > ペアのひとと下記の会話を不定詞を使って完成させ、会話練習をしましょう。

A: Where did you go last Sunday? B: I \_\_\_\_\_

A: Why? B: I went there \_\_\_\_\_

A: \_\_\_\_\_

W…不定詞を用いて行動の目的を含んだ文を書くことができる。(英作文)

L…対話文を聞き行動の目的について聞き取ることができる。(リスニングテスト)

S…最近訪れた場所についてその目的を述べながら紹介することができる。(ペアでのスキット発表)





年間を見通した系統的・継続的な指導の在り方については、CAN-DOリスト活用における最も重要な点であるので、内容を見直しながら指導につなげていきたい。さらに、小学校の外国語学習での学習内容を効果的に取り入れ、また高校での英語学習にスムーズにつながるような指導となるよう小・中・高の連携を意識したCAN-DOリストの共有が必要である。その点においても、今後の実践を通して、さらに効果的なCAN-DOリストの作成に取り組んでいきたいと考える。

#### 4.2 タスク活動と評価の在り方について

生徒たちに英語力がついたかどうかを確認するためには、実際にその活動をさせてみるとよく分かる。ペーパーテストではよく定着しているものと思われていた内容でも、実際に使って話してみる、書いてみるという活動をさせたところ思いもよらない間違いや、応用力のなさに気付かされることも少なくない。CAN-DOリストを活用した指導においては、生徒全員が設定された到達目標に確実に達することが目標である。教師は生徒ができない項目をできるようにするまで支援し、また生徒自身も自ら努力することが求められる。これまでのようにテストや活動の評価を受けて終了とはならない。そういった意味でCAN-DOリストを活用した授業は徹底した個に応じた支援であると言える。しかし今後の実践においては、タスク活動やパフォーマンステストの内容についても、更なる工夫が必要であると考え。生徒が興味を持つ活動であるのか、意味ある活動であるのか、求められる力を判断するにふさわしい活動であるのかなどの視点を持って活動の改善を図っていきたい。

次に評価の在り方についてである。これまでは小テストや定期テストなどの結果を中心に判断し、生徒の成績を算出してきた。今回作成したCAN-DOリストを活用することにより、生徒の英語力を「知識」と「言語運用能力」の両方から総合的に評価できるようになることが期待される。そこで実際に評価をする際に問題となるのは、テストの結果とCAN-DOリストによる到達度をどのようなバランスで成績に反映させるかという事である。本研究においてはリストの作成の段階までにとどまったが、今後はペーパーテストとタスク活動、パフォーマンステストなどの内容の改善、及び適正な評価システムの在り方等を視野に入れ、日々の実践に取り組んでいきたいと考える。

## 5 引用・参考文献

- 開隆堂出版編集部. (2012). 『SUNSHINE ENGLISH COURSE Teacher's Manual 解説編』. 開隆堂.  
北原延見. (2010). 『英語授業の「幹」を作る本 (上巻)』. 株式会社ベネッセコーポレーション.  
北原延見. (2010). 『英語授業の「幹」を作る本 (下巻)』. 株式会社ベネッセコーポレーション.  
田尻悟郎. (2009). 『(英語) 授業改革論』. 教育出版.  
中嶋洋一. (2000). 『学習集団をエンパワーする30の技 subjectからobjectへ』. 明治図書出版.  
長沼君主. (2009). 『Can-Do評価-学習タスクに基づくモジュール型シラバス構築の試み』東京外国語大学論集第79号.  
本多敏幸、他. (2012). 『ONE WORLD ENGLISH COURSE Teacher's Manual 指導編』. 教育出版.  
文部科学省. (2008). 『中学校学習指導要領解説-外国語編』. 開隆堂.  
横溝紳一郎、他. (2010). 『英語教師田尻悟郎の挑戦 生徒の心に火をつける』. 教育出版.  
吉島茂、他. (2012). 『外国語教育Ⅱ 外国語の学習、教授、評価のためのヨーロッパ共通参照枠  
『Common European Framework of Reference for Languages; Learning, teaching, assessment』. 朝日出版社.